

だるま通信

2018年7月号



厳しい暑さが続く今日この頃、
日頃、委員会活動にご支援ご協力を賜りありが
とうございます。入院生活支援チームの活動を
少しお便りで紹介させていただきます。



- ✚ 転倒・転落予防に対する認識を高め、実践能力を養う
 - ✚ 転倒・転落予防に対する知識を深め、アセスメント能力を向上させる
 - ✚ 各建屋の環境を安全面から評価し、環境整備や改善を行う
- ということを目標に3つのグループに分かれて活動を行っています。



各チームの活動目標と年間計画

企画チーム

- ◎ 転倒転落予防強化月間の企画・準備
ポスター作製
報告会のイベント内容決定と計画
報告会の準備と進行
- ◎ だるま通信年2回刊行
《7月・1月》だるま通信の配布



アセスメントチーム

- ◎ チーム内で症例・情報を持ち寄りアセスメント検討
- ◎ 勉強会の企画・開催
《6月》「転倒する患者心理について」の勉強会開催
《2月》勉強会の開催（テーマ未定）

環境チーム

- ◎ 滑り止めマットの使用状況、知名度、評価を行う
 - ◎ 転倒転落に関する入院案内パンフレットの見直し
 - ◎ ベッド柵の固定紐の検討
- ※皆さんのご意見をお待ちしております！

4月11日転倒・転落防止新人研修を終えて

看護師・看護補助者新規採用者を対象に、転倒転落に関する患者の安全を守る対策や転倒転落発生時の対応についての講義、電子カルテ上のアセスメントシート、離床センサーの紹介をしました。今年度は入職間もなく、イメージが付きにくい中の研修でしたので、各部署での指導教育のフォローをお願いいたします。

一部新人さんのアンケートでの感想をご紹介します。

- * 転倒予防に対して看護師がしっかりと評価する必要性を学べた。
- * 対策次第で防止できるので、しっかりとアセスメントをしたいと思った。
- * 何度説明しても離床してしまう方への説明はどのようにすればよいか教えてほしい。



6月20日『転倒転落予防の難しい患者の心理と関わり方』について勉強会開催

今回は患者の心理面について理解し、どう関われば良いのかという視点で臨床心理士の宇田まゆみ先生より講義して頂きました。援助的コミュニケーションの原理を理解し、こちらの想いで話すのではなく相手の言葉で返す。転倒転落予防対策は患者と医療者が一緒にしていくもの、それをわかってもらえる関係、患者がセンサーを付けられても「見張られている」ではなく「見守ってもらっている」と安心し、信頼してもらえる関係、患者も医療者も嬉しい転倒転落予防を目指していきたいと思いました。



H30年度転倒転落予防強化月間（10月1日から10月31日）

テーマ：事例から学ぶ転倒転落予防一人は何故ころぶのかー

10月17日（水）新規入職者対象車椅子移乗研修（外来棟5階講堂）

10月31日（水）17：30 転倒転落予防月間報告会（外来棟5階講堂）

* 今年度は体幹を鍛える等いろいろな企画を考えております。皆様、是非ご参加ください！

